

研究者の横顔			
フリガナ	ゴトウ ミカコ		
お名前	後藤 美賀子	助成金額	50 万円
ご所属	国立成育医療研究センター 女性の健康総合センター 妊娠と薬情報センター		
研究テーマ	妊娠期がんの診療と意思決定支援に向けた実態解明と医療者教育への展開 ― 全国相談データを活用したエビデンス創出		
1：研究者になろうとしたきっかけ			
<p>日々、妊娠中の薬や治療について不安を抱える方々の相談に向き合う中で、”情報がない”ことに患者さんも医療者も困っていると感じ、妊娠中の薬に関する安全性を世に出したいという思いで研究を行なっています。妊娠期がんは「治療を急ぐ思い」と「お腹の子への影響を避けたい思い」がせめぎ合う非常に繊細で高度な判断を要する領域です。年齢上昇に伴う罹患の増加という現実もあり、個々の状況に即した根拠と選択肢を示す体制づくりの必要性を強く感じ、妊娠期がんの実態解明に踏み出しました。臨床と行政の橋渡しを意識し、現場の意思決定を確かに支える知を日本から発信したい―それが私の原動力です。</p>			
2：助成研究の内容紹介			
<p>全国から集まる「妊娠と薬情報センター」の相談データベースを用い、妊娠中にがんと診断された方の背景、診断週数、治療の実施状況、母体・周産期転帰を後方視的に整理・解析します。希少で断片的になりがちな情報を系統的に束ね、日本における妊娠期がん診療の実情と課題を可視化したいと考えています。得られた知見は、医療者向けの診療支援資料や相談業務の手引きとして整備し還元したいと思います。</p>			
3：2の将来に繋がる結果予想・目標			
<p>妊娠期でも納得感のもとに治療を選べるよう、がん種・治療法と母児予後の実臨床エビデンスを提示し、診療指針や情報提供の質向上につなげられればと思います。最終的には、意思決定支援資材を整備し、患者さん・ご家族と医療者の対話を前に進めることを目標にできればと考えております。</p>			
4：全国の RFL 関係者に一言メッセージ			
<p>がんに向き合いながら、新しい命を守ろうと懸命に生きる方々の選択を、確かな情報で支えたいという思いでおります。皆さまからのご支援を、現場の「迷い」を減らす力に変えていけるように努力いたします。</p>			